

プログラム・ノート

オヤマダ アツシ

クーブラン(バズレール 編曲)：『コンセルのための5つの小品』

フランス・バロック音楽の黄金時代を築いた作曲家の一人、フランソワ・クーブラン(1668～1733)は、膨大な数のクラヴサン(ハープシコード)曲や「コンセル」と呼ばれる室内楽作品などを残した。お聴きいただく『5つの小品』は、パリ音楽・演劇学校(現在のパリ国立高等音楽院)でチェロ科の教授を務めていたポール・バズレール(1886～1958)が、クーブランの作品(ヴィオラ・ダ・ガンバのための曲)から5つの曲を選び出し、チェロを主役とした組曲として再構成したもの。「前奏曲」「シシリエンヌ」「トランペット」「嘆き」「悪魔の歌」から成る。

フランセ：『バロック風二重奏曲』

20世紀のパリ楽壇において風雲児のような存在だったジャン・フランセ(1912～97)は、ストラヴィンスキーらの影響を受けつつ軽妙洒脱な作風を駆使し、多くの作品を残した。1980年、ベルリン・フィルのコントラバス奏者なども務めたギュンター・クラウスと、ハープ奏者であるギゼレ・ヘルベルトのために書かれたこの二重奏曲は、古典的な造型・構成を維持した全4楽章形式の中に、フランセ流のウィットを忍ばせた組曲。行進曲風の第1楽章で始まり、瞑想曲風の第2楽章、舞曲風の第3楽章、そしてメルヘン風の第4楽章へと続く。

ドビュッシー：『夢想』

挑戦的かつ革新的な和声を用い、多くの斬新な作品でパリ楽壇を賑わせたクロード・ドビュッシー(1862～1918)だが、作曲家として本格的なキャリアをスタートさせた20代の頃は、多くの歌曲やピアノ曲を書いた。1890年(28歳頃)に作られたこの小品(原曲はピアノ・ソロ曲)もそのひとつであり、冒頭から奏される上下行の音型が聴き手を甘美な夢の世界へと誘う。

サン=サーンス：ファゴット・ソナタ ト長調 作品168(コントラバス版)

映画音楽も含む多彩なジャンルに作品を残し、保守的な作風で近代フランス音楽をリードし続けたカミーユ・サン=サーンス(1835～1921)。86年という生涯を送った中、最後の輝きとなったのは管楽器とピアノのためのソナタ(3曲)を含む作品群だった。その中の1曲であるファゴット・ソナタは、1921年の初夏に書かれ、当時のトップ奏者であるクレマン=レオン・ルテリエに献呈されている。全3楽章構成であり、伸びやかな第1楽章、舞曲調の第2楽章、牧歌調の第3楽章と続く。

(おやまだ あつし・音楽ライター)